

令和2年度
左京区まちづくり活動支援交付金
鞍馬山に豊かな1000年の森をのこそう
活動報告書

団体名 鞍馬明日に向かって

主な取り組み

鞍馬山風倒木活用
積木の秘密基地ワークショップ
(京都府立北稜高校・京都精華大学)

鞍馬山独自の森林再生実験
山に合った苗木(地域性苗木)植樹
(地元有志・森林整備専門家)

鞍馬山の木の種拾いと苗木作り
(鞍馬山保育園)

現在進行中

これまでの成果

昨年の12月12日、叡山電車鞍馬駅舎をお借りして「鞍馬山から学ぶワークショップ」を開催しました。コロナ禍でどうするか悩みましたが、対策を万全にして開催することにしました。

人数制限などを行い消毒や検温そして追跡調査アプリを導入して臨みました。

地元の鞍馬明日に向かってと京都精華大学、京都府立北稜高校とのコラボレーションで鞍馬山の風倒木を生かしてレンガブロック大の積み木を製作。

当日子どもたちは、積み木の秘密基地を組み立てて中に入ってもらい、木片で家具やおもちゃなど思い思いの作品を製作してもらいました。木の魅力や面白さを存分に体験。

コロナ禍で換気も行って寒い中で、元気で熱心に長い時間、木とふれあい遊んでいました。

3年半前の台風21号による5000本にも及ぶ鞍馬山の風倒木について、また、その後の森林再生に向けての状況を伝える展示を行いました。

京都精華大学の学生さんには風倒木の家具や小物づくりを通して社会貢献活動としてのものづくりを体験してもらいました。北稜高生は、展示やオリジナルの映像、また秘密基地のレンガ大ブロックの研磨を一つ一つ丁寧にしてくれました。

当日は、スタッフ合わせて総勢100名近い人たちが入場されましたが、感染はもちろん、ケガや病気などもなく無事に終わることが出来ました。

鞍馬山のふもとにある鞍馬山保育園の園児にも、お山の森の再生の大切なお仕事をお願いしました。

それは、お山のどんぐり拾いとそのどんぐりの苗を育ててもらうことでした。元々は、地元だけでなくお山を好きな子どもたちやその家族の皆さんに、ヤマザクラなど、2度季節を変えてお山を代表する木の種を拾ってもらって、100年、300年の木を育てるためお山に還す苗づくりの最初のお手伝いをしてもらうつもりでしたが、コロナで難しくなりました。

その分、保育園のお友だちが、小グループに分かれて秋にどんぐりを拾い、今、園庭で大切に育ててくれています。



鞍馬寺の信楽執行も来場。学生さんと交流されました。



もうひとつの大きなイベントが、3月末に控えています。お山オリジナルの森林再生実験です。お山の多様な生態系を守るために、出来るだけお山に近い場所で育った苗を大杉権現周辺のめい想道場に最小限に植樹して柵で鹿から守り、鳥が運ぶ種や、山の再生する力を生かして、森林再生実験を行います。

この地元やお山に合った苗木、地域性苗木は、おととしの台風21号以降、関心が高くなり、京都市内の被害地域でも注目されて需要が増えました。それは素晴らしいことなのですが、お山に必要な苗木の在庫が確保しづらい状況になっています。工夫を重ねながら、本来の鞍馬山の姿に近い形で再生し、それを、業者任せにせず、地元の住民も有事に備えて手入れができる力が必要です。災害が多発しているため自己防衛は必要です。花背の専門技術者と地元の有志の協働作業です。長い長い道のりが始まります。

これからの課題

コロナ禍でカリキュラムが流動的で大変な中、大学や高校の先生方には本当にご尽力頂きました。また、叡残電車や関係各所も協力を頂いて手ごたえはあるものの、これから防鹿柵を立てた後の鹿に破られないようにメンテナンスや下草の処理、苗の育成には長期間の手入れが必要です。風倒木も活用してクラウドファンディングなど資金確保や、機動力があるネットワークの構築、人材育成には、互いのコンセプトイメージの共有が欠かせません。広報啓発も含めて地域に合ったボランティアの連携と持続可能な活動のあり方の模索や工夫が必要です。